

令和6年度全国学力・学習状況調査の傾向と対策

加古川市立別府中学校

実施日時：4月18日

対 象：中学3年生

〈国語〉

平均正答率は兵庫県及び全国平均とほぼ同程度である。

「知識及び技能」については、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が高く、「思考力、判断力、表現力等」については「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の正答率が高かった。

一方、「書くこと」に関しては課題があり、作文や読解力を高める取組を充実させていく必要がある。

〈数学〉

平均正答率は兵庫県及び全国平均とほぼ同程度である。得意分野や苦手分野についても違いは見られなかった。国の平均値と比較すると、「数と式」や「関数」の結果がよく、「図形」や「データの活用」においては課題が見られた。

今後の課題として、授業において基礎基本の定着を図るとともに、朝学習等において ICT を活用した基礎問題への取組を重ねていく。

〈質問用紙〉

「先生はあなたのよいところを認めてくれている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という生徒の割合が、全国平均値よりかなり上回った。「学校に行くのが楽しい」「友達関係に満足している」という生徒の割合も全国平均を上回る結果だった。

しかし、「休日にどれくらい勉強をしますか」や「学習を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に対しては、肯定的な回答が全国平均値より低く、課題が見られます。

ICT 環境を充実させ、家庭学習・個別学習の充実を図り、自学自習の時間と質を向上させていきたい。

